

■2007年(7月～12月)活動報告■

募金贈呈式

12月27日(木) 事務所にて

- ◆ボーイスカウト佐賀第5団カブの12月のテーマは「カブのクリスマスプレゼント」。いつもクリスマスにはプレゼントをもらうばかりなので、今年は子どもたちがサンタさんになって「世界の困っている子どもたちにプレゼントしよう」と、募金活動をしました。16日に20名の団員や保護者の皆様は、ゆめタウンで手作りの募金箱を持って一生懸命お客様に募金協力を呼びかけました。
- ◆本日は事務所を訪れて33,340円の募金を手渡されました。募金贈呈の後、「水」についてのミニ学習会をし、水がめ運びをしたりORS(経口補水塩)やビタミンA、プランピーナッツなどのお話をしたりしました。今回の募金で1年分のビタミンAを8,000人以上の子どもたちにプレゼントできると聞いて驚いていました。



ユニセフ募金に取りくんで

- ◆ぼくたちが頑張った募金で、すごくたくさん子どもたちにビタミンAをおくることができてすごいなあと思った。がんばってよかった。

第29回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド「あなたと守る、子どもの命」

12月24日(日) 鹿島(ピオ・ララベル)にて

今年のハンド・イン・ハンドは「～子どもの未来は栄養が握っている～」をテーマに行いました。

- ◆鹿島地区では冷たい風のなか、ピオ・ララベルの2箇所でハンド・イン・ハンドを実施しました。
- ◆ボーイスカウト鹿島第一団のみなさん・リーダーの方・保護者の方などたくさんのボランティアが、買い物に来られるお客様に大きな声でユニセフ募金への協力を呼びかけました。



ボーイスカウト鹿島第一団のみなさん



メガホンを手に大きな声で呼びかけ



2歳の坊やもハンド・イン・ハンド



冷たい北風の中で足をとめてご協力

募金贈呈式

12月21日(金) 柳川市立大和小学校

- ◆大和小学校では運営委員の皆さんがユニセフについて学習し、パワーポイントでまとめて児童集会で全校のみなさんにユニセフの活動や身近な形で支援できることを伝えました。
- ◆12月10日から17日まで5・6年生の皆さんが毎朝交代で校門に立ち募金活動をしました。協力してくれた人には手づくりの「ユニセフ募金ありがとうカード」を渡しました。
- ◆6日間で集まった27,768円のユニセフ募金の贈呈がありました。大和小学校の校訓の1番目に掲げられている「健康」を受けて、「子どもたちが健康に育つことはユニセフの願いです。」とお話し、アフリカで『奇跡の食べ物』と呼ばれている「プランピー・ナッツ」のお話をしました。子どもたちは自分たちの募金が600袋以上ものプランピー・ナッツ分にあたることを知って驚いていました。

運営委員長の話

- ◆去年よりも人数が少なくても期間も短かったのでどのくらい募金が集まるか心配だったけど、思っていた以上にたくさん集まってたくさんの子もたちが助かるのでうれしいです。



ユニセフ出前授業

12月19日(水) 三潁郡大木町立大溝小学校6年生

- ◆6年生の皆さんは、総合的学習の時間に世界の様々な国や地域の子もたちの暮らしを調べてきました。今日はまとめとして「世界の子もたちは、今」の学習をし、それを生かして「自分たちにできるボランティア」に発展させ、ポスター制作をして全校のみなさんに協力を呼びかける予定です。
- ◆「くすり屋さんをさがそう！」の活動で文字が読めないことの不安さや戸惑いを体験しました。

学習を終えて

- ◆「くすり屋さんをさがそう」で1回目は読めなくて不安になったけど、2回目の「薬」は読める漢字だったので安心して行けた。
- ◆日本では大人が働いて子どもが学校に行くのは当たり前だけど、世界には働かないといけない子どもが2億5千万人もいておどろいた。学校に行けない子どもがいっぱいいるので支援をしたい。
- ◆1円や100円など安いお金と思っていたけど、たった1円でも4円あると命が救えることにびっくりした。はがきなどのリサイクルで命を救えるということが分かって、やりたいと思った。



第29回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド「あなたと守る、子どもの命」

12月16日(日) 佐賀玉屋デパート前・上峰サティ・イオンスーパーセンター佐賀店・
パニーズ三日月店・ジャスコ佐賀大和店にて

今年のハンド・イン・ハンドは「～子どもの未来は栄養が握っている～」をテーマに行いました。

- ◆暖かい「ハンド晴れ」の午後、佐賀玉屋デパート前・上峰サティ・イオンスーパーセンター佐賀店・パニーズ三日月店・ジャスコ佐賀大和店の5箇所ですべて「子どもの未来は栄養が握っている」というテーマで募金活動をしました。
- ◆各会場近くの方や福岡市、武雄市、柳川市などから駆けつけてくださったボランティアさんは総勢116名にもなりました。暮れの買い物客で賑わう会場で、ボランティアのみなさんは「4円あれば1年分のビタミンAを世界の子どもたちにおくることができま～す。ご協力をお願いしま～す！」と大きな声で呼びかけました。5会場での募金総額は175,997円にも達しました。
- ◆ボランティアの中学生は「募金をしてくれる優しい大人の人がたくさんいてうれしかった。世界の子どもたちのために少しは役だったかなと思うと、自分もうれしかった。」と話してくれました。



イオンスーパーセンター佐賀店



**ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアのみなさま
募金に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くのみなさま
快く会場をご提供くださった企業のみなさま
本当にありがとうございました**



←パニーズ三日月店

上峰サティ→



佐賀玉屋デパート前



ジャスコ佐賀大和店



募金贈呈式

12月12日(水) 小城市立三日月小学校



- ◆小城市立三日月小学校ではボランティア委員会の皆さんがユニセフ募金にとりくみ、登校時に児童玄関で募金協力の呼びかけをしました。
- ◆人権集会でユニセフ募金の贈呈式が行われる予定でしたが、風邪が流行っているため集会は中止となり、校長室での贈呈式となりました。三日月の子どもたちの温かい気持ちがいっぱい、15,686円がボランティア委員会代表から手渡されました。
- ◆贈呈式のあと短い時間ではありましたが、佐賀県支部作成の資料「いのちの水」の映像を見ていただきました。



ユニセフグッズ展&頒布

12月8日(土) 佐賀玉屋にて

- ◆グッズ展「一枚のカードで守る 子どものいのち」をテーマにユニセフグッズの展示を行ないました。
- ◆ユニセフ・カードやギフト製品は、世界各国の芸術家・所蔵家・芸術関係者の方々より作品複製許可をいただいで制作しています。
- ◆ユニセフ・カードは、定価から製作費や管理運営のための諸費用を差し引いた分(約50%)が世界150以上の国と地域におけるユニセフの現地活動資金等として、子どもたちの幸せと輝く未来のために役立てられます。



ユニセフパネル展

12月8日(土) 「ふれあい人権フェスタ2007」会場にて(佐賀市文化会館)

- ◆パネルでユニセフの活動を紹介し、「子どもの権利条約カード」で子どもの権利の40の条文を紹介しました。
- ◆スタッフも「人権を考えるワークショップ②～子どもの人権を考える～」に参加しました。
- ◆福岡県の「志免町子どもの権利条例」について学び、佐賀県における「子どもの権利」についての現状をみつめるきっかけづくりになるようにというものでした。



出前授業

12月4日(火) 長崎県平戸市立野子中学校1年～3年(26名)

野子中学校の皆さんはユニセフの様々な資料を使って人権学習に取り組んでできました。本日は佐賀県支部のスタッフと一緒に「つながっている」というテーマで学習をしました。「いのちの網」ゲーム・絵本「いのちのまつり」・ビデオ「ユニセフと地球の友だち」などを通して、「いのち」の様々なつながりについて考えました。



学習を終えて

1. 「いのちの網」ゲームをして

- ◆動物や虫や草など生き物のいのちはみんなつながっているんだなあと思いました。いのちのつながりってすごい！
- ◆生きるということはみんな微妙なバランスで保たれているんだなあと思った。
- ◆小さいいのちが死んでいくと大きな動物まで死んでいくと分かって、いのちのつながりはすごいなあと思いました。いのちの大切さが改めて分かりました。

2. 絵本「いのちのまつり」を読んで

- ◆私のいのちはずっと昔からつながっていたということを考えたこともなかったので、すごいなあと思った。
- ◆自分はたくさんのいのちがつながって今ここにいると思うととてもすごいことだと思った。感激しました。
- ◆いのちは周りの植物や動物など横のつながりだけではなく、先祖からの縦のつながりもあるんだなあと思った。一人の人のいのちだけかと思っていたけど、ここにもたくさんのいのちがつながっているんだなあと思った。読むことができてよかった。

3. 私の「はじめの一步は…」

- ◆食事のときに、いろんないのちのつながりを感じながら食べたい。
- ◆みんな同じ子どもなのにきつい思いをする子どもがたくさんいるというのは悲しいと思います。そんな子どもが一人でも減るように自分にできることをやっていきたいです。
- ◆私の今の普通の生活が世界の子どもたちにとっては、とても幸せなことなんだと思った。小さなことからでも世界の子どもたちのためにできることがあったらやっていきたいと思った。



募金の贈呈
授業の終わりに、生徒会長さんからユニセフ募金の贈呈がありました。

さが国際交流・協カフェスタ2007 ユニセフボランティア講座<3>

12月2日(日) アバンセ4階OA講習室(佐賀市どん3の森)

- I. ワークショップ「一枚の看板」
- II. カンボジア視察報告会「カンボジアの子どもたち」
 - ① カンボジア・クイズ
 - ② 報告会「カンボジアの子どもたち」

I. ワークショップ「一枚の看板」

援助することの意味について
一緒に考えました。



アイ子へのアドバイスは？
★政府や村の委員会と話し
合いをしたら...



あなたはバーン村の小学校に
10ドルを寄付しますか？
★みんなで20\$



アイ子の活動に賛成ですか？
反対ですか？
★やや賛成、その訳は...

参加者の声

- ◆自分の考えをグループのなかで出すことによって、自分の考えのぼんやりしていたものが少しはっきりしてきたように思いました。
- ◆グループの人数が3~4人と話しやすかった。内容もアドバイスなど発展性のある部分まで考えることができよかった。
- ◆自分の考えでは思いもつかなかったような意見をたくさん聞けて視野がすごく広がった。また、似通っている意見も多く考えがほとんど同じことに驚きもした。自分のためになった講義でした。

次ページに続く

II. カンボジア視察報告会「カンボジアの子どもたち」

① カンボジア・クイズ

カンボジアからの留学生 ケン・ソチエットさんとチャイ・ラッタナさんによるカンボジア・クイズを楽しんでいただきました。



Q. カンボジアの首都は
プノンペンです。では、
プノンペンの意味は？



カンボジアの教科書等を興味深く見る人たち



子どもたちは楽しく遊びながら
文字や数を身に付けていく

② 報告会「カンボジアの子どもたち」 レポーター 山屋満津江さん(日本ユニセフ協会展示ボランティア)

◆日本ユニセフ協会展示ボランティアの山屋さんは2007年7月に学校事業部のスタディ・ツアーに参加。ユニセフがカンボジア政府とともに行なっている支援事業(保健・コミュニティ幼稚園・子どもにやさしい学校・衛生など)やNGO団体を視察して来られました。

◆現地の子どもたちや村の人たちとの交流を通して、見たこと、聞いたこと、感じたことをたくさんの写真や資料を使って詳しく話していただき、ユニセフがカンボジアの子どもたちのためにどのような支援をしているかがよく分かりました。



参加者の声

◆留学生の方が、「カンボジアへぜひきてください。」と誇りを持って言っているのを見て、私は外国へ行ってこのように自分の国に誇りを持って言えるだろうかと思った。留学生さんたちの、これから自分たちの国を築いていこうとする気概が感じられて、応援したい気持ちになった。

◆写真と説明が豊富で現地の様子が非常に詳しく伝わってきました。大変わかりやすく話してもらってとてもよかったです。

◆カンボジアでユニセフがどのような支援をしているかよく分かった。学校や幼稚園の写真を見て、壁のない教室や屋根のない教室があることに驚いた。カルチャーショックだった。

◆映像を通してカンボジアの現状を知ることができ、身近に感じました。海外ボランティアについて考えることができました。

募金贈呈式

11月28日(水) 事務所にて

- ◆佐賀市立城東中学校JRC委員会の皆さんは、11月4日の文化発表会で、ストリートチルドレンの問題を取り上げパワーポイントで発表しました。また、保護者や生徒の皆さんにユニセフ募金協力を呼びかけました。
- ◆手作りの「ユニセフ募金に協力しましょう」と書かれたのぼりや募金箱を持って各展示会場をまわり、保護者や先生方、生徒の皆さんにユニセフ募金協力を呼びかけました。
- ◆本日は定期試験の合間をぬって、代表の方と担当の先生が1学期に取り組んだ募金と文化発表会の際の募金、あわせて12,598円を届けてくださいました。



JRC委員代表者の声

- ◆ユニセフ募金に、保護者のみなさんや友だちがよく協力してくれて感動しました。
- ◆文化発表会でパワーポイントの発表を見た友だちが「かわいそうだと思った。」とか、「日本はぜいたくすぎるね。」などという感想を寄せてくれて、私たちの募金がそういう子どもたちの助けになればいいと思いました。

ユニセフパネル展

◎11月24日(土)～25日(日)第9回佐賀大学祭にて(本庄キャンパス)

佐賀大学本庄キャンパスでおこなわれた大学祭において、農学部の皆さんがユニセフパネル展をしました。識字の大切さ～それが命にかかわるとき～コーナーを設け来場者に体験活動をしてもらいました。



来場者の声

- ◆体験コーナーで、このような体験をしなければ、識字の重要性について気付くことはなかなか難しかったと思います。
- ◆パネルを見て大変学ばされました。世界の子どもたちが安心して学んだり生活したりできるようにユニセフの活動があるのだと分かりました。少しでも世界の子どもたちが笑顔でいられますように、私も何か力になれたらいいなあと思いました。
- ◆自分たちにとっては当たり前で過ごしていることが、当たり前ではない子どもたちがいるということが心に留め、何事にも感謝の思いを持って生活することが大切だと気づきました。



イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン 品物贈呈式

11月23日(金・祝) ジャスコ大和店にて

◆イオンでは、お客さまとともに環境保全・社会貢献活動を考え行動する日として、毎月11日を「イオン・デー」と制定しています。「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」はその活動の一環です。この日に、買い物をし、レジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。



◆佐賀県支部でも、ユニセフのBOXを用意していただき、皆様にご支援をお願いしております。おかげさまでA4コピー用紙10500枚寄贈されました。事務局では、そのコピー用紙の代金分を募金とさせていただきます。今回は6月に続き2度目の寄贈となりました。ご協力ありがとうございました。

募金贈呈式

11月19日(月) 事務所にて



◆成瀬中学校では色々な募金活動に取り組んでいますが、5月の生徒総会で昨年取り組んだ「ユニセフ募金活動」に今年も取り組むかどうか提案され、過半数が「続ける」という事に賛成しました。それを受けて自治厚生部の皆さんを中心に11月の学芸発表会会場でユニセフ支援のためのバザーを開きました。また、総合学習で「ユニセフ」を課題にした4人の皆さんのプレゼンテーションが審査の結果選ばれて全体会場で発表されました。

◆本日はバザーの売上金63,580円と募金箱に寄せられた募金4,526円、合わせて68,106円をユニセフ募金として部長さんと担当の先生が事務局まで届けてくださいました。

自治厚生部長さん(3年生)のお話

- ◆「ユニセフ」を調べていくうちに、貧しさのなかで様々な困難な状況にある子どもたちがこんなにたくさんいるんだということを改めて知った。私が私立の中学校に行けているということは幸せなことだと気づいた。毎日を大切にしなければならないと思った。
- ◆保護者の皆さんから思った以上の高価なものをバザーにたくさん提供していただいた。世界の子どものことを思ってください。すごく優しい保護者がたくさんいらっしゃることを知ってうれしく思った。

ユニセフボランティア講座<2>

～命をくれる水、命をうばう水～

11月18日(日) アバンセ4階OA講習室(佐賀市どん3の森)

I. 「命をくれる水、命をうばう水」

II. メジナ虫病って？

III. スペシャル・ドリンクを作ろう



スペシャル・ドリンクを
作ってみよう



この水はこの水？

有明海・筑後川・水道水・十間堀川？それともクリーク.....？

味みをする訳にはいきませんが、透明度・臭い・浮遊物・沈殿物などをよく見て「きき酒」ならぬ「きき水」大会をしました。8種類のうち3種類正答が最高得点でした。安全な水を見極めるのは難しい！

参加者の感想から

- ◆世界の水に関する現状について知ることができてよかったです。映像・パワーポイントを使った説明はとても分かりやすく身近に感じることができました。衛生状態が整っていないことから起こってくる病気などを知ることができてよかったです。スタッフの方がとても温かくて、また来たくくなるような雰囲気でした。
- ◆メジナ虫の話は始めて聞くことで、成虫になって体から出てくる画像にビックリしました。体の痛みだけではなく仕事ができないために経済的な痛みも伴うと聞いて「水」は健康面だけでなく人々の経済的な暮らしにも深くかかわるものだと知りしました。やはり、「水」は何よりも大事なものだ改めて気づかされました。
- ◆スペシャル・ドリンクの試飲など実際に体験できたこと。時にこういう講座の場合、どうしても外国の話が中心になり体験の場が少ないので、少しでも体験ができたことはよかったと思った。

ユニセフグッズの頒布・ミニバザー

11月11日(日) 「かたりべの里本庄祭り」会場にて(佐賀市立本庄小学校)

- ◆“ぽ～ん”とポン菓子のできる音が響きわたる中を、焼そば、綿菓子、フランクフルトなどのたくさんのお店を見てまわる子ども達。ユニセフでは、グッズを選ぶ大人の方々に混じって、10円玉を握りしめ元気な子ども達がミニバザーに集まってくれました。



ユニセフ グッズ頒布

11月11日(日) バプテスト佐賀教会にて

- ◆バプテスト佐賀教会では1993年の佐賀友の会(佐賀県支部の前身)設立準備年以來15年間にもわたってユニセフカード・グッズの頒布にご協力をいただいています。ユニセフのクリスマスカード、ギフトを毎年楽しみに待ってくださっています。



ユニセフ グッズ頒布

11月11日(日) ViViDひだまりコンサート会場にて(鹿島市民会館エイブル)

- ◆「はあとふる ひだまりコンサート」は「障がい」を持った子どもたちの音楽活動発表の場で、佐賀県支部も名義後援で応援させていただいています。今回初めてロビーでユニセフグッズの紹介をさせていただきました。

ユニセフ支援バザー・グッズの頒布・パネル展

11月10日(土) 佐賀市メートプラザにて

- ◆成瀬中学校第11回学芸発表会会場において昼の休憩時間を利用したユニセフ支援バザー、グッズの頒布、パネル展が開かれました。バザー品は、先生、保護者の方、関係者より提供されたたくさんの品々、手作りのパンなど心のこもったものばかりでした。
- ◆ユニセフグッズの売上げは、14,100円で約50%の7,000円近くが現地での活動資金として役立てられます。



ユニセフパネル展、活動紹介&グッズ頒布

10月27日(土)~28日(日) 2007アバンセ・フェスタ会場にて(佐賀市どん3の森)

- ◆まなびひろば2007~創ろう・つなごう・まなびの場~の一環として「2007アバンセ・フェスタ」が開催され、多くの県民が種々の催しを楽しめました。
- ◆CSO活動紹介コーナーにおいて、掲示物やスライドショーでユニセフや支部の活動を紹介したり、グッズの頒布をしたりしました。



募金贈呈式

10月23日(火) 事務所にて

◆佐賀清和中学校ユニセフ実行委員会のみなさんは、9月5日、6日の文化祭で「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」のテーマのもとにユニセフ募金活動に取り組みました。ユニセフのパネルやビデオ、パンフレット、チラシ等で全校の皆さんや保護者の方々にユニセフへの理解と協力をお願いしました。皆さまからご協力いただいた53,009円の募金を「学校に行けない子どもたちや、厳しい生活の中で頑張っている子どもたちのために役立ててください。」と代表の方と担当の先生が事務所までお届けくださいました。



実行委員のお話

- ◆学校に行きたくても行けなくて勉強ができない子どもたちがいることを知り、かわいそうだなと思った。カカオの農場で働いている子どもたちは、カカオがチョコレートの原料になることを知らないし、チョコレートの味も知らないし、かわいそうだなと思った。
- ◆募金活動をしていて、100円とか10円とか私たちがふだん何気なく使っているお金で救える命がたくさんあることを知り、これは素晴らしいことだと思った。パンフレットを渡してももらってくれる人が少ないときは、もっとみんなに関心を持ってもらえるようにしなくてはと思った。

ユニセフボランティア講座<1>

10月14日(日) アバンセ4階OA講習室(佐賀市どん3の森)

- I. ビデオ「ユニセフと地球のともだち」
- II. ワークショップ「インドの紙袋作り」
- III. 「ユニセフってなんばしよと？ボランティアってなんばすつと？」

◆ 大学や専門学校の学生さんの参加が多く、ユニセフやボランティアについて楽しく学び合うことができました。

◆ 「インドの紙袋作り」

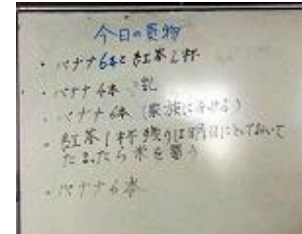
「8時間、休みなくこの紙袋作りをして、一体どれだけのものが買えるでしょうか？」 カルカッタの子ども
の気持ちを考えながら、紙袋を作ってみました。



さあ、紙袋を作ろう！ 熱が入って立ち上がって作業をするグループもありました。



買ってもらえる袋は何枚？



1日8時間休みなく働いて買える
今日の買い物は？

参加者の感想から

- ◆ 日本にいてなかなか見ることができない外国の現状がパワーポイントの説明でより知ることができ、少しでも力になりたいという思いが大きくなりました。ぜひ、私の学校でもやりたいです。
- ◆ 実は「ユニセフ」についてこれまでは「名前」は聞いたことがあっても「内容」を本当の意味では知らなくて、今回大変いい経験になりました!! 私も何かできることがあれば是非させてください。
- ◆ 実際にインドで子どもたちが行っている紙袋作りを体験してみて、これを8時間も続けるのは無理だ！と感じた。また、稼いだお金で何を買うか考えることで、本当に自分がその立場におかれているように感じ、貴重な体験ができた。以前、マザー・テレサが、ある貧しい家族に1kgの米を与えたのですが、その家族(妻)がその米を持って出て行ったそうです。マザー・テレサは、何をしているんだろうと疑ったのですが、その妻は隣の人も同じように貧しく食べるものがないので分け与えたそうです。そんな話を思い出し、私にもその妻のようにできるだろうか...と思いながらワークショップをした。参加できてよかった...



ユニセフパネル展

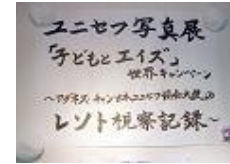
10月5日(金)～7日(日) 第29回佐賀大学医学部むつごろう祭にて

佐賀大学鍋島キャンパスでおこなわれた学園祭において、学術の皆様がユニセフのパネルを展示して下さいました。

ユニセフ写真展「子どもとエイズ」世界キャンペーン

～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のレソト視察記録～

9月2日～9月12日 佐賀市立図書館2階ロビーギャラリーにて



来場者の声

- ◆ レソトという国を初めて知った。レソトでは国民の4人に1人がHIV/エイズにかかっているということを聞いて驚いた。エイズは「大人のこと」と思っていたが、そうではなくて「子どもたちにとっても大きな問題になっている」ということが分かった。写真を見てよかった。
- ◆ レソトという小さな国がアフリカにあるということを初めて知った。その国の人々の平均寿命が35歳ということを知った。90年代初めの頃の平均寿命は60歳だったということで、それが今はエイズのために35歳ということはレソトには社会の基盤を支える働く人々がどんどん少なくなっていくということで、このまま放っておけばレソトはエイズのために国が滅びるのではないかと思った。日本にいる私たちは「対岸の火事」として置いてよいのだろうか？
- ◆ 小学生の娘と来ました。ガリガリに細った子どもの写真など世界の貧しさを目のあたりにして...言葉につまります。娘(小6)の「エイズって?」という言葉に、もっと家で話してあげなくてはと思った。

ボランティアさんの声

- ◆ 今日はユニセフと世界で苦しんでいる子ども達のことについて勉強できました。今回のボランティア活動で、こうやって、ただ何かをすることで、他の人達にも、世界で苦しんでいる子ども達のことを紹介できるということを知りました。写真を見た人達にレソトの子ども達のことについて、考えてもらうきっかけを作れたのがとても嬉しいです。私自身も、今回のボランティア活動を通して、もっと、手伝えたいという気持ちがすごく大きくなりました。これからは、もっとボランティア活動をして、少しでも世界で苦しんでいる子ども達の助けになりたいです。(高校生)
- ◆ 写真には、とても強い力があります。子どもたちとアグネスさんの会話が聞こえるようで、笑い声や悲しみ、苦しさを想像しました。写真展を通して、たくさんの人にこの気持ちを、この現状を感じて欲しいです。(高校生)



事務所訪問

8月27日(月) 佐賀県支部事務所にて

- ◆ 成瀬中学校3年生4人の生徒さん達が訪問されました。総合学習でユニセフについて勉強し、10月に発表されるそうです。
- ◆ ビデオ『ユニセフってなあに・・・』を見た後、ユニセフ基礎リーフレットをテキストにして勉強しました。
- ◆ 殺虫処理をした蚊帳、水がめの実物、地雷のレプリカに触れ、経口補水塩、ビタミンAが自分達にも手の届く金額で手に入ることを知りました。

学習を終えて

- ◆ 知らないことが多かったので、もっと勉強していきたいと思っています。
- ◆ 世界の子どもの中には、学校に通っていない子どもがたくさんいることに驚きました。



ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布&交流会

「2007ピースアクションinナガサキ」

～テーマは「被爆者への想いを寄せる、長崎の再発見」～

8月8日(水) 長崎市民会館展示ホールにて

- ◆ 「We Love Peace! みんなのひろば」にて、パネル展、グッズの頒布、ユニセフすごろく、プロジェクターを使って絵本の読み聞かせを行いました。



グッズの頒布



プロジェクターを使って
絵本の読み聞かせ



学生ボランティアさんと



ユニセフすごろく

- ◆ 佐賀県支部の参加は今年が初めてでしたが、5名の長崎の学生ボランティアさんの大活躍もあって、ちびっ子たちは「ユニセフすごろく」や「絵本の読み聞かせ」に大喜びでした。
- ◆ 「2007ピースアクションinナガサキ」は、日本生協連と長崎県生協連が、62回目の原爆の日を迎えるにあたり、あらためて平和を考えるために開催したものです。全国各地での平和への取り組みを持ち寄り、地域から広島・長崎へ、そして再び地域へと平和の活動が繋がっていることを実感する「つながりと交流」の場となりました。

ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

8月2日(木) アバンセ(佐賀市)

「ピースアクション2007 ～平和のつどい～」会場にて

- ◆「ピースアクション」は50年近く続けられてきた生協の平和活動です。佐賀県でも佐賀県生協連に加盟する7つの生協が協力して、「平和とよりよき生活のために」をスローガンに、毎年親子で取り組める平和活動が展開されています。会場には約230名の方が集まり、ピースリレーやミニコンサート、アニメ「よっちゃんのビー玉」などを通して平和な世界を願われました。
- ◆ホワイエでは、ユニセフのパネル展・グッズ頒布・ミニバザーをしました。地雷レプリカに関心を持って質問する子どもたちや、「話聞いたことはありますが、これが子どもを狙った地雷ですか？」と、携帯カメラで撮られる方もいらっしゃいました。
- ◆会場でのグッズご協力は10,000円、募金箱やミニバザーへのご協力は6,565円で全額募金とさせていただきました。ありがとうございました。



第4回ユニセフのつどい

'07夏 ～若い力が未来をつくる～

7月22日(日) アバンセ(佐賀市)

後援：佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会 NPO法人佐賀大学スーパーネット



「第4回ユニセフのつどい」に、小学生からご年配の方までユニセフに関心を持ってくださる多くの方においでいただきました。中学生によるフレッシュな司会で、「つどい」は和やかに進行しました。



司会：池田さん、光岡さん(成瀬中学校3年生)

I. アイスブレイキング「ユニセフ・ビンゴ」

「ユニセフ・ビンゴ」を通して、ユニセフの歴史や活動について触れていただきました。



II. 現地視察報告会：「伝えたい！見たこと・聞いたこと・感じたこと」

(1)「ジャワ島地震から1年～みんなが笑顔でいるために～」
山口春香さん(武雄高校1年)



山口さんは中学3年の夏休みに、「NPO法人国境なき子どもたち」主催の、「2006年夏休み友情のレポーター」として、ジャワ島中部地震の被災地を取材。自作のビデオ「地球がまあるい理由」をつかしながら、ジャワ島地震被災地の同年代の子どもたちの様子を伝えていただきました。

(2)「私がニジェルで出会った子どもたち」
本司貫さん(佐賀大学経済学部3年)



本司さんは、大学1年の春休みに、「あしなが育英会」が2000年から毎年行っている「日本と世界の遺児の心の癒しつどい交流会」に、ニジェールの遺児たちを招くための事前調査隊としてニジェルを訪問。平均寿命41歳のニジェルで様々な困難な状況下でもキラキラ輝く瞳で元気に生きる遺児たちの様子を伝えていただきました。

(次ページに続く)

Ⅲ. パネルディスカッション「地球市民として明日を拓く」

コーディネーター 大草秀幸さん(アバンセ館長)
パネリスト 田中凌慧さん(佐賀西高校1年生)
山口春香さん(武雄高校1年生)
本司貫さん(佐賀大学3年生)
牛島裕子さん(看護師)
富安慶子さん(公務員)



田中さん

ボランティアは楽しい！昨年学校でチャリティーバザーを企画実行した。バザーは身近なところから始められ、いろんな人と知り合うことができ人の輪の広がりを実感し、また達成感も味わうことができた。バザーという形で気軽にユニセフの活動を知ってもらえることができる。身近な小さなことから始められることがいっぱいある。



山口さん

地震で家族を亡くした子どもの話を聞いて自分のことのように感じた。それでも子どもの目はキラキラ輝き、子どもたちの「感動する心」を感じた。今私にできることは、積極的に世界のことを知ること、そしてそれを忘れないで考え思い続けること。幸い私は勉強できる環境にあるので、今はしっかり勉強をして自分に力をつけたい。



本司さん

とかく「途上国」というと悪い面が大きく取り上げられるが、良い面もたくさんあるということを伝えたい。フェアトレードの製品を買うなどの身近に協力できることはある。現地の人にとって一番重要なことは、自分たちの力で村づくりや国づくりをしていくこと。「自分たちの力で頑張ろう」としている気持ちをお手伝いできるような仕事をしたい。



牛島さん

子どもの頃TVで心や体に傷を負いながらも懸命に生きている子どもたちの姿を見て看護師になりたいと思った。今、途上国での医療活動がどのような環境下で行われているか、この目で現地を見たいという思いが強い。世界中の子どもたちが笑顔で駆けまわり夢を持つことができる、そんなあたり前のことができるように、看護師として医療の技術をもっと身に付けたい



富安さん

TVで世界の惨状を見ながら「なぜこんなことが起きるのだろう」と子どもの頃から思い、大学では国際政治や民族紛争について勉強した。平和構築のためには「人としての思いやり」が大切だと感じている。「ある出来事」を一つの視点からみただけで「知った」ことにはならない。なるべくいろんな角度から物事をみていくようにし、身近な小さなことから少しずつやっていくと、いい方向に動くと思っていて頑張っていきたい。



大草さん

若い5人の皆さんのそれぞれ違った立場からのお考えを聞かせていただきました。みなさん、しっかりしていますね！自分の足元をしっかりと踏みしめ、これからを見据えている！

(次ページに続く)

参加者の感想から

- ◆若い人たちの、自分をしっかり見据えながら広い視野で世界の貧困や災害下にある弱い立場の人たちに目を向け考え、ヒトゴトではなくジブンゴトとして捉えられていることに心を動かされました。若者に学ばなければと思いました。
- ◆中学生が立派に司会をされたことはとてもよかった。中学生の司会を見て、いろんな世代にユニセフの活動が広まっているということを感じることができた。
- ◆佐賀にもこのような若い方がいらっしゃるのを頼もしく思いました。
- ◆今日の集い、参加させていただきありがとうございました。世界の不条理と向き合って、なんとかしたいと思う純粋な気持ちを持った若い人たちに出会い、頼もしさを感じつつ、自分の活動の原点・・・学生時代のユニセフクラブなどでの活動・・・も思い出させてくれました。サークルでは「知って、伝えて、行動する」ことがモットーでしたが、今日の皆さんの活動の様子はまさに同じでした。大人になる前、立場が決まってしまう前、ある意味「フリー」な時に、いろんなところへ行き、いろんなことを直に体験し、感じ、考え、悩み、なおかつ、自分の中だけにとどめずに、どんどん外に働きかけ『続けて』ってほしいなと思いました。遠くの世界に想像力を働かせながら、身近なところから変革と創造に向けて、ともに歩いていきましょう。
- ◆しっかりとした若者の意見を聞くことができて大変よかった。このような若者が佐賀に生まれ育っていることにもっとライトを当てたい。「この頃の若い者は・・・」と言う言葉は苦言を呈するときに使うが、「この頃の若い者はすごい！しっかりしている！」と言いたい。ぜひ、それぞれの夢の実現に向けて頑張ってください。